

第1回 学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和8年5月11日(月) 午前10時から正午まで

2 会 場 吉田特別支援学校 会議室

3 参加者

○委員	浜松学院大学 特任教授	山田 浩昭 様
	駿遠学園管理組合園長	藁科 知行 様
	ハイナン農業協同組合流通販売部長	峯野 利也 様
	吉田町片岡地区 自治会長	伊吹 雅夫 様
	本橋テープ株式会社 代表取締役	本橋 真也 様
	吉田町防災課 統括	大石 洋三 様
	保護者代表	松井 則章 様

○学校職員

校長	伊藤 聖子	副校長	夏目 奈保子	事務長	村松 みゆき
教頭	竹下 哲之	分教室教頭	美尾 陽子	小学部副主事	青木 真衣
中学部主事	小野田 朋弘	高等部主事	菅野 圭	肢体訪問統括	河野 康平
教務主任	加茂 真澄	コーディネーター	斎藤 小百合		

4 議事録

(1) 校長挨拶

今年度が始まって一か月。子どもたちは運動会に向けて準備を着々と進めている。
本年度新しい委員の皆様を迎え、本年度は「防災」をテーマに取り組んでいく。そのため、今年度から委員として吉田町防災課大石様に加わっていただいた。
昨年度、開校10年目を向かえた。この先も「地域に吉田特別支援学校が吉田町
にあってよかった」と思ってもらえるよう、地域と共に進めていきたい。

(2) 職員紹介

(3) 会長及び副会長の選出 (承認)

会 長: 山田 浩昭 様
副 会 長: 藁科 知行 様
地域コーディネーター: 伊吹 雅夫 様

(4) 協議

ア 令和8年度学校運営方針

・ 学校経営について(校長)

開校以来の教育理念「つながり合い学び合う」を本年度も進める。全ての人がつながり合う共生社会の推進に貢献する学校を目指している。「合う」がポイントであり、同じ立場で地域に貢献していくインクルージョンを目指す。

学校教育目標は「夢に向かって いきいき なかよく すこやかに学びゆく人」であ

る。「人」は子どもだけでなく教職員、保護者も含まれる。本年度は3年計画の2年目である。具現化の柱の第一を授業とし、連携と安心が下支えをするという考え方である。

授業においては、子ども一人一人に合った目標と教育活動を進め、やりがいと手ごたえのある授業を実践する。

連携においては、「防災対策」に重点を置きコミュニティスクールを進める。吉田町との繋がりを学区内の他の市町にも広げていきたい。

安心においては保健CM(カリキュラムマネジメント)マップ、食に関する指導の全体計画を更新中である。また、大規模災害に備えた危機管理体制、避難訓練 登下校中・家庭にいるときの防災も考えていきたい。

業務改善については県全体の重点的な取り組みである。本校の経営計画にも下線を引いて示してある。業務改善の基盤として教職員の専門性の向上を目指している。

イ 学部経営計画

- ・ 小学部の経営について(青木副主事)
重点は具現化の柱「安心」である。保護者の思いへのより添いを大切に。希望面談と保護者サポートのための学習会の実施する。
- ・ 中学部の経営について(小野田主事)
自ら動き仲間とともに自信を持って生活できる生徒を目指している。防災教育に重点をおく。危機管理マニュアルを活用し防災訓練の事前事後指導の充実をさせる。自ら命をまもることのできる生徒を育成する。
- ・ 高等部の経営について(菅野部主事)
社会参加を目指すことを第一に、学校、家庭、地域の中で自らの力を発揮できる生徒を育成する。発災時に避難所で役割をもって活躍できるような力を伸ばす。
- ・ 肢体教育(河野肢体訪問統括主任)
目指す姿は各学部の姿と統一している。重点は具現化の柱の「安心」である。教師の視点に加え児童生徒の視点から防災訓練に臨む。研修等を通して保護者と教師と一緒に実際の災害時をイメージして議論していく。

ウ 駿遠分教室経営計画

小さな集団だが、「友達と一緒に活動」「友達と協力して活動」を大切にする。駿遠学園創設以来の地域とのつながりを大切に「福用に分教室があっただけよかった」と感じてもらえる学習活動を展開する。防災に関しても地域と連携する。

【質疑応答】 委)委員 学)学校職員

委)防災とは具体的にそのような災害を想定しているか

学)特に、災害の内容を限定はしていない。一人一人の子どもの実態に合った防災教育を目指している。

学)車椅子を使用している児童生徒の避難については、いろいろな災害を想定して今後検討が必要である。

委)子どもにとっては面白い授業が一番大事なこと。やりがいと手ごたえは子どもも大人

も同じ。大人（教師）が授業（仕事）に対してやりがいを感じる事が大切。

委) 各学部の目標、目指す姿が小中高で繋がっていてほしい。学部によって教育の方針が違うという意見を保護者から聞くことがある。進路を決めなくてはいけないというトップダウンの考え方だけでなくボトムアップを大切にしてほしい。強度行動障害が卒業後のテーマになることがある。学校での12年の実践がその後の人生にどう関わるか考えて学校教育をお願いしたい。

委) 支援学校の発信力は強い。

芸術に触れることは成長にとって大切。地域の中学生や地域の方の音楽的活動等とタイアップできると良い。

委) 防災訓練も大切だが、何かあった時には助け合いが大切。学校がオープンな姿勢で地域も助ける、地域も助けてもらうということも大切だと考える。

委) 避難所の運営という大きな視点で考えてきたが、児童生徒一人一人という視点を持つことができた。例えば高等部の生徒が避難所で何ができるか、個別避難計画をどう進めるかという視点を持った。

委) 実際に被災した学校と情報共有しているか

学) 校長会や防災担当等は、防災の研修がある。災害時にあったとき、学校としての対応・避難所開設に向けて地域との連携の在り方、学校再開に向けての取り組み等、可能な限り情報を共有していきたい。

(5) 校内参観

(6) 意見交換

委) 大優先として「児童生徒の命」を守る。災害を防ぐといより「守る」という観点が大切

学) 考えることが多い。一年で解決できるものではない。

委) 作業棟に行く途中 グラウンドから戻ってきた児童が挨拶してくれた。教師が挨拶する姿をみている。素晴らしい姿である。

委) 防災備品として水が大切。吉田特支は井戸水を利用していると思うが、災害時に飲料水としても使えると良い。「水」があることは地域も安心である。プールの水を生活用水にできる方法を考えられるか。

学) 水道は、水道水 プールは井水を使用している。

(7) ボランティア先生活動

- ・ 3年計画の最終年である。
- ・ 活動内容は昨年度からの継続の予定。

(8) 校長より(お礼)

テーマを防災に掲げてはいるが、今年一年学校運営全般についても御意見をいただきたい。よろしくお願いします。

